

策定年月	令和5年2月
見直し年月	令和 年 月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：鶴岡市

(作成主体：月山高原農地委員会)

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## 【現状と課題】

鶴岡市は、経営耕地面積に対する水田の割合が約9割を占める国内有数の穀倉地帯である。

近年、主食用米の需要が減少する一方で、国産小麦の需要は拡大しており、鶴岡市、三川町においても小麦栽培に参入する農家が増えている。また、地域産の小麦の活用を希望する実需者も多い。管内における小麦生産は、近年生産が始まったものであり、施肥や防除等の技術が確立されていない。継続した生産を行うためには、麦種に応じた施肥管理や輪作体系を強化することにより、品質向上と安定した収量の確保が求められている。

## 【課題解決に向けた取組方針】

- ①団地化、ブロックローテーション、輪作等を適正管理するために、地図のデジタル化とGIS整備を実施する。
- ②人・農地プランや農地中間管理事業による農地の集積の推進と連携しつつ、小麦の団地化に向けた話し合いを実施する
- ③地図システムを活用し、生産者間で情報共有し、生産技術の共有と輪作体系の確立を図る。
- ④センシングに基づく可変施肥を行うことにより、化学肥料及び化学農薬の使用量を地域の慣行レベル以下かつ前年より1割以上低減することが出来、品質が安定することにより単収の増加を実現する。
- ⑤実需者との協議の場を設け、適切な生産量の確保に努める。
- ⑥庄内農業技術普及課から播種や管理等の技術指導をうけることにより、安定した収量の確保に努める。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

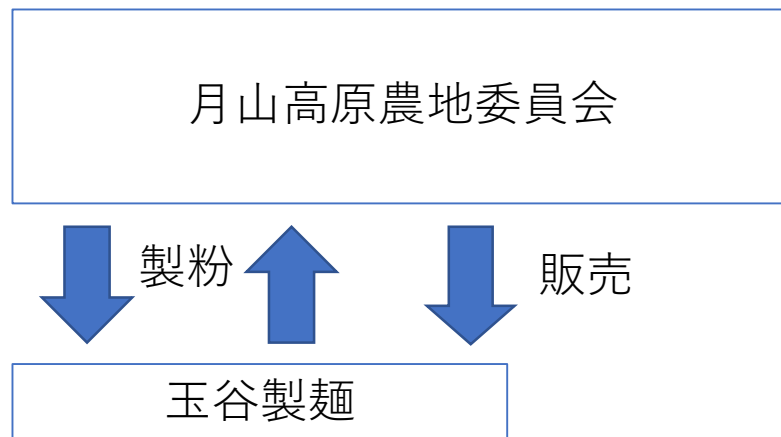
## 2. 産地と実需者との連携方針

### 【小麦】

生産者(月山高原農地委員会)⇒ 玉谷製麺(製粉)

現状取扱量(R4年産): 31,999kg(玉谷製麺)

目標値(R8年産): 79,664kg(玉谷製麺)



※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

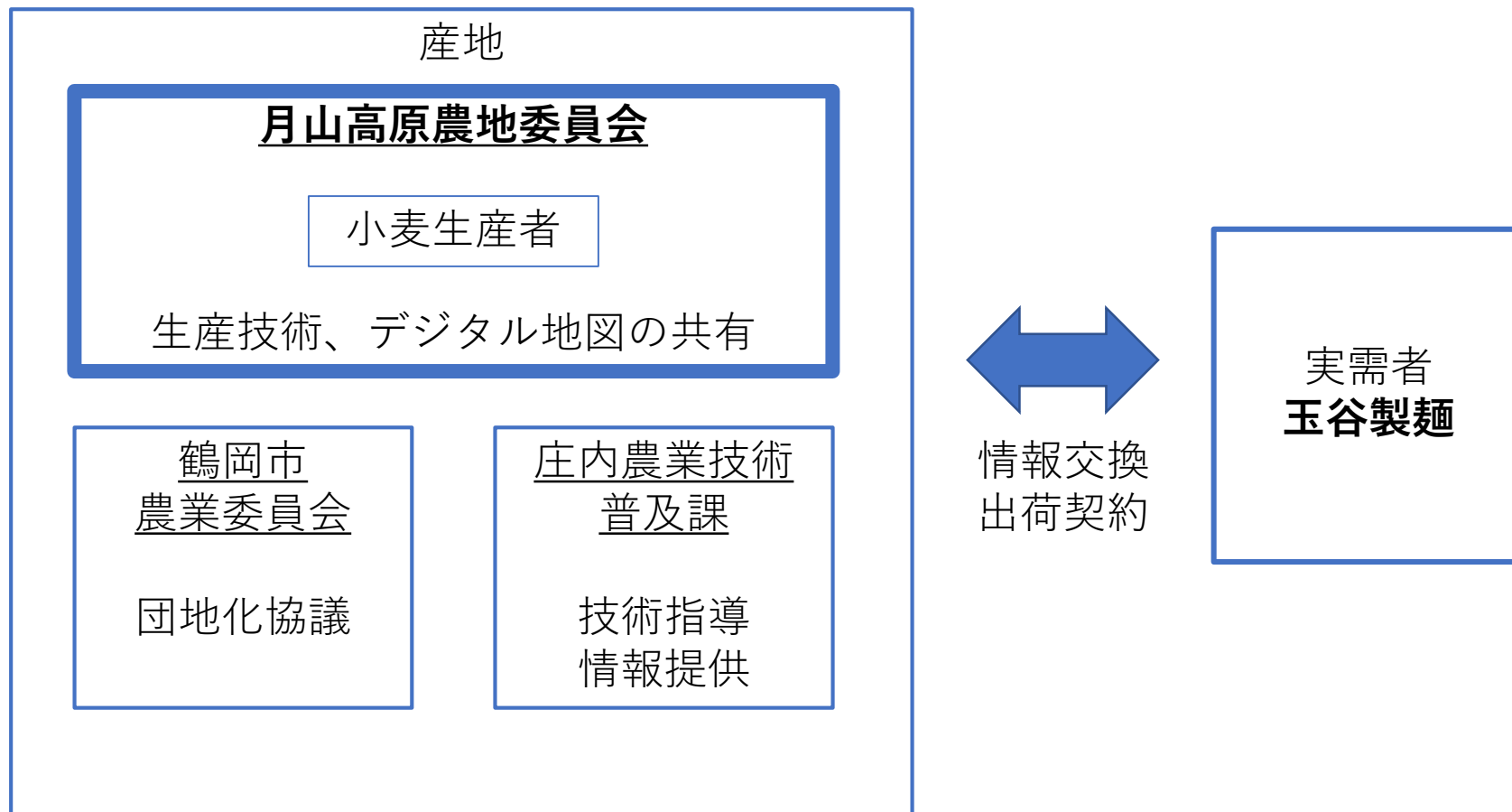
※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割

#### 【推進体制】



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。